



特定非営利活動法人 事業継続推進機構

・BCAO活動紹介 ～活動の幅が広がる～

- P.1 Facebook を活用したリアルタイムでの活動発信
- P.2 情報システムバックアップオフィス研究会の活動
- P.4 関西地域勉強会の活動
- P.7 徳島地域勉強会の活動
- P.8 D-PAC プロジェクト in 徳島 想定外への挑戦
- P.9 BCAA アワード 2016 募集のお知らせ

特定非営利活動法人 事業継続推進機構（BCAO）は、事業継続計画（BCP）の普及啓発と専門人材の育成を目的に、2006年に設立されました。当機構では、事業継続（BC）に関する資格制度や表彰制度などとともに、活動の柱として、BCの最新の情報提供活動、BCの基本事項について会員同士が集まり研究する場である「研究会」、地方在住・在勤の会員の方で研究会参加が困難な方たちが地域ごとに集まりBCについて意見交換や勉強をする場である「地域勉強会」なども実施しています。本号ではこれらをご紹介するとともに、今年度各地で実施している「D-PACプロジェクト」についてもご紹介します。

Facebook を活用したリアルタイムでの活動発信 －BCAO の Facebook ページへの暖かい「いいね」を！－

皆様、現在、Facebook に BCAA のページが開設されているのをご存じでしょうか。これまで BCAA は、ホームページから皆様に情報を提供してきましたが、BCAO の活動に関する情報をより早くお届けするために Facebook を活用することを決定し、2016 年の 5 月に立ち上げました。

本来、Facebook では「双方向に意見を交換する」「より多くの人に意見を書き込んでもらう」というコミュニケーションの形をとることも可能ですが、まだスタートして間もないこともあり、リアルタイムで活動状況をお伝えすることを目指し、投稿は BCAA で実施したイベントの報告の形をとっています。

BCAO のホームページ右上にある Facebook のマークをクリックして頂ければ、見覚えのある BCAA のロゴマークが表示されます。どうぞ BCAA の Facebook ページを訪れて頂き、「フォロー」をして下さい。そして、私共の活動をより多くの方に知って頂き、BCAO の知名度を上げていくため、BCAO の活動をお知らせする投稿に「いいね！」をクリックしてください。ぜひ皆様からたくさんの「いいね！」を頂きたいと考えています。



写真-1 BCAA の初投稿記事



写真-2 BCAA ホームページのトップページ

さらに、現状のイベントをリアルタイムに投稿していく方法に加え、今後どのような形で次の段階に移っていこうかと模索しています。これからこの取組みをどのように広げていけばよいか、皆様のご意見も聞きながら、チャレンジしていきたいと思っています。多くの皆様のBCAO Facebook ページへのご訪問をお待ちしています。



写真-3 BCAO Facebook

セキュリティ等の信頼性の強化、物流・サプライチェーンを含めた社会インフラの強化においても必須のものとなってきています。

【歴史的な活動と構成】

ITBO 研究会は2006年のBCAO創設後の黎明期より「国内外の個人及び企業、政府その他の団体における事業継続を支える情報システムの現状及び課題の調査分析と、課題解決に向けた各種研究活動の推進」を行う情報システム分科会と「国内外の企業において事業継続を支えるバックアップオフィスの現状調査分析を通じ、必要な機能／要素を洗い出し、それに対する現状の問題点／課題解決に向けた各種研究活動を推進」を行うバックアップオフィス分科会が合同して、活動を開始し今日に至っています。これまで様々な活動を行っていますが、主なものは表の通りで、「過去」を学び、「現在」を知って、「将来」を見据えるという考え方の下、メンバー間で、自由に議論を行っています。

研究会の活動概要履歴

年度	活動内容
2006	アンケートの作成、小冊子「企業を守る災害対策のすすめ」の作成、BCAO 事業継続初級管理者受験用テキスト（ITBO 分科会部分）の作成、プレゼンテーションの実施
2007	小冊子「企業を守る災害対策・事業継続のすすめ」の作成、プレゼンテーションの実施、アンケート作成支援と実施・分析、BCAO 事業継続初級管理者試験用テキスト（ITBO 分科会部分）の作成
2008	ガイドラインの比較研究（① 経産省 IT サービス継続ガイドライン ② 経産省 BCP ガイドライン ③ 総務省自治体向け IT サービス継続ガイドライン ④ BSI PAS 77 ⑤ 内閣府事業継続ガイドライン）
2009	プレゼンテーション、テーマ活動（IT 訓練等のノウハウ共有、ITBO 用語整理、他

「研究会活動」

情報システムバックアップオフィス 研究会の活動

－激変する情報処理システムやオフィス環境 の理解と事業継続性強化を目指して－

【はじめに】

国内外において情報通信技術とこれを体現した情報システムの重要性が爆発的に増し、それを前提にした法律・制度も確立されつつあります。また、その法律・制度が適用される場合も、仕事を行うオフィス環境から家庭等の個人の活動にまで広がってきています。

このような中、情報システムの役割は、平時の事業推進における業務効率向上のみならず、個々の組織の自然災害等の緊急時における活用も含めて、事業継続性の強化という観点で検討・適用されてきました。最近では、社会全体のレジリエンシーの向上として、特に、情報セ

	研究会とのコラボレーション)
2010	ITBO 用語研究、プレゼンテーションによる情報共有、HAPPY HOUR、他の研究会との交流、BCP 訓練の研究、クラウドに関する検討
2011	ITBO 用語研究、プレゼンテーションによる情報共有、HAPPY HOUR、他の研究会との交流、東日本大震災で発生した事象や関連する影響についての意見交換、クラウドに関する検討
2012	サイバー攻撃とITサービス継続、プレゼンテーションによる情報共有、HAPPY HOUR、他の研究会との交流、バックアップオフィス討議
2013	バックアップオフィス討議、プレゼンテーションによる情報共有、HAPPY HOUR、他の研究会及び地域支部との交流、ITBO 用語研究、メンバー向けメルマガ配信「メルマガ風味」、クラウドサービス(Google ドライブ)による情報公開
2014	『サイバーセキュリティ 明るい未来の道しるべ』 新しいリスク (サイバー犯罪、等)、喫緊の課題 (IoT、等)、新しいソリューション (分散型セキュリティ技術、等)
2015	『サイバーセキュリティ 明るい未来の道しるべ』 分散型合意形成システム (ブロックチェーン、等)、クラウドサービス、フィンテック、IoT、等

【現在の活動】

ここ数年は、情報通信技術の新しい動向を調査・検討し、それを把握した上で、新しいリスクの抽出とその評価、事業継続性との関わり等についての議論を行っています。

主なトピックスとしては、クラウド化の進展、分散型合意形成システム(ブロックチェーン等)、IoT、ビッグデータ、AI 等です。メンバーには情報通信技術の利用を業務にて実践した経験者が揃っているため、単なる技術紹介にとどまら

ず実務における適用性の可否に至る議論が行われています。

本年度の実施内容は以下のようなものです。

1.サイバーインシデントを題材として机上訓練

情報漏えい事件が頻出し、また、情報セキュリティ事故が事業継続性にまで影響を与える可能性がある現状に鑑み、4月、5月の研究会では、情報セキュリティ関連の事故発生を想定した机上訓練を実施しました。また、事業継続の訓練として、大規模地震のような破壊系の事象による机上訓練はよく見られるのですが、情報セキュリティ事故を原因とした机上訓練は、研究会メンバーの経験が少なく、破壊系との違いについて新しい知見が得られました。机上訓練はブレインストーミングとしても有効なものと考えています。本年度の活動内容を検討するため、また、IT と事業継続との関わりについて原点に立ち返る意味でも有意義な机上訓練でした。

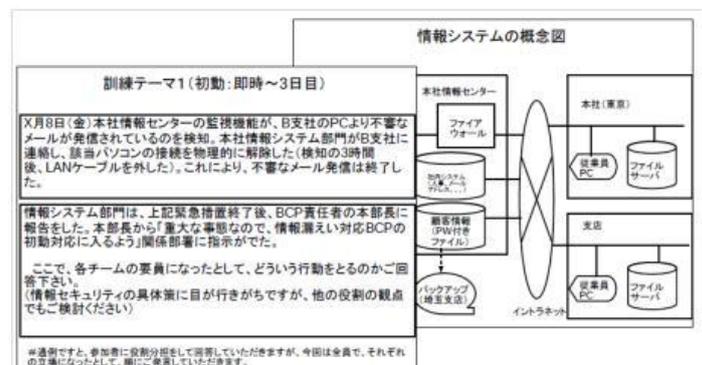


図-1 机上訓練の例

2.トピックスの紹介と関連ニュースの調査

(1) 経済産業省 サイバーセキュリティ経営ガイドラインの紹介

各種のサイバー攻撃の事例や漏えい事故などの話題には事欠きませんが、単なる防止策ではなく、経営者の視点で「IT に対する投資やセキュリティに対する投資等をどの程度行うかなどの判断」に関して経営者の役割をまとめたガイドラインが2015年12月に公表になりました。事業継続と相通じるもので、この方面のエキスパートのメンバーより報告が行われました。

(2) 関連ニュースの調査

活動テーマ選定の参考に、最新の関連ニュースをまとめて振り返り、検討を行いました。世界での事業継続に関連する情報システム分野の動きの激しさが浮き彫りになりました。

3.最新技術動向の調査・検討

10月以降の研究会では、以下のようなテーマにつき公開資料調査を行い、その結果をもとに、注目すべき技術テーマにつき検討中です。採用したテーマは以下の通りです。本年度はこれらの動向をまとめ、引き続き次年度もこの延長線での活動を続ける予定にしています。

- (1) 地震予知・予測技術 (10月)
- (2) AI・ビッグデータ・IoTの各分野での具体的な適用
 - (a) 物流・交通 (11月)
 - (b) 医療・保健 (12月)
 - (c) 情報システム監視
- (3) 情報セキュリティ関連技術

【今後の活動の進め方】

今後の活動は次のような点を重点に行い、研究会参加メンバーのメリットのある方法で行います。

(1) 最新動向の紹介

ITの最新動向に常に着目して研究活動を行います。会員には、IT関係の先進企業メンバー等が含まれており、研究会の伝統である「自由な議論」を行います。

(2) 地方からの参加に配慮

遠隔地からも会合に参加できる様規程を整備の上、電話会議システム等を活用し、地方から月例会に参加できるように運営します。既に、関西地区メンバーは電話会議にて参加しています。

(3) 共有ツールを活用したディスカッション

以前から、電子メールやGoogleドライブを使った情報共有・議論を進めて参りました。本年度からは、Slackを利用した情報共有・ディスカッションを試行中です。今後とも、多様な

手段での研究会員間の情報共有・ディスカッションを進めていきます。

(4) 適宜、見学等を実施

本年度は未実施ですが、会員外のプレゼンテーションや企業（施設）見学の実績もあり、今後取り入れていきたいと考えています。

(5) 研究成果の発表

本年度テーマを次年度以降も継続し、対外発表を行い成果の活用・社会への貢献を図ることを目標にします。



写真-1 研究会メンバー
(12月会合時の集合写真)

「地域勉強会活動」

関西地域勉強会の活動 座長：藤村雅彦

関西地域勉強会は、2006年9月の初回会合から117回（2016年11月時点）の勉強会を開催してきました。年度ごとの活動概要履歴を示します。

勉強会の活動概要履歴

年度	人数	内容
2006	40名	丸谷理事長（現：副理事長）支援頂き基礎知識を学ぶ。BCAO講演会、公開意見交換会を支援。
2007	61名	参加企業施設を会場に、月例会を開始。参画企業のBC、防災への取組紹介、新型インフルエンザも議題とした。本部連携で、「BCP

		セミナー in 神戸」を開催。「防災フェア in きょうと」を支援。
2008	65名	地震リスク（中国四川地震）、新型インフルエンザ、IT デザスタリカバリ、フードディフェンス等、多岐にわたり議論。BIA 研究会立上。関西広域機構主催研究会、徳島県フォーラム、和歌山県セミナーへ講師派遣。
2009	75名	参画企業 BCM 普及状況のアンケート（進捗確認のベンチマーク）実施。BC 関連のガイドライン開発動向、阪神大震災 15 年を踏まえた BCM、関西地域勉強会の地域、企業との連携のあり方等を議論。徳島商工会議所セミナー、和歌山県 BCP 基礎セミナー、徳島大学セミナーへ講師派遣。
2010	56名	活動の活性化を目的に、3 名の副座長を選任。本部との TV 会議開始。名古屋地域勉強会座長、本部研究会、オブザーバー参画による勉強会を実施。
2011	57名	東日本大震災、タイ洪水について参画企業の観点のテーマで意見交換。ワークショップ（クロスロード研修）を実施。
2012	64名	角座長より川口座長へ交代。更なる組織活性化を計画。3 研究会（B&B WG、エネルギー WG、教育・訓練 WG）が自主的に活動開始。関西地域勉強会運営委員会組織を編成。
2013	68名	「南海トラフ巨大地震に備える」、「BCM の新しい動向を吸収する」を重点項目に活動。現地調査活動を開始し、メンバー有志で東日本大地震東北現地視察（12 名参加）、和歌山県南部現地視察（9 名参加）を実施。BCP 普及啓発活動として、他地域連携の必要

		性を議論開始。
2014	65名	川口座長より萩原座長へ交代。「メンバーズ」に対応した勉強会テーマの実施、「WG の更なる活性化」、「ビデオ学習会による新しい試み」を重要項目に活動。昨年度の勉強会ビデオ聴講を関西事務所で試行。大規模集客施設現地視察（27 名参加）を実施。
2015	66名	勉強会で全員参加型のお悩み相談会を開始。徳島現地視察（7 名参加）を実施し、産・学の防災、BCP 取組について意見交換。
2016	60名	萩原座長より藤村座長へ交代。参加メンバー講師による勉強会（避難所運営ゲーム、学校教育機関における BCP、海外の BCP、等）開催。BCAO メッセージの「これからの事業継続（BC）」を議論。勉強会を開催。2 月に熊本現地視察予定（8 名参加）。



写真-1 和歌山県セミナー（2007年）

2009 年までは、勉強会での自己研鑽の他、地域への普及貢献が活動割合の多くを占めていました。2010 年からは、関西地域勉強会以外の組織、講師からの情報収集を積極的に実施し、活動の活性化を図りました。東日本大震災以降は、想定外に起こる災害等をタイムリーに捉え意見

交換し、更には知識深耕のために WG 活動を開始しました。登録メンバーとして 70 名程度を維持している大所帯です。円滑な運営のために支部運営委員会を組織し、活動・勉強会などの企画・運営を行ってきました。勉強会のテーマ等の企画力向上が、メンバーの BC 知識とノウハウの向上に繋がっていると感じています。

【本年の活動状況】

関西地域勉強会では、第 3 水曜日に月例会(支部会・勉強会)を開催しています。支部会は、運営会議、支部運営委員会の報告とその他情報発信の場としています。勉強会は、90 分議論しています。

表の 2016 年勉強会テーマをご参照下さい。講師からの情報提供のみに終わらず、全員参加型の意見交換を実施しています。異業種観点での想定外の意見もあり大変盛り上がります。月例会終了後の懇親会にて参加者間で更なる議論を深めることもできます。BC でお悩みあれば、個別相談も可能です。



写真-2 避難所運営ゲーム：HUG（2016年）



写真-3 D-PAC プロジェクト（2016年）

2016 年度 勉強会テーマ	
テーマ	概要
徳島研修報告	徳島現地視察、研修会報告
メンバーお悩み相談会	BCP 策定、維持管理における悩み、問題点の深掘り
危機管理取組の企業紹介	メンバー企業の危機管理取組紹介と意見交換
避難所運営ゲームを使用した BCP 訓練	災害発生時の避難所運営を疑似体験。
海外の BCP について	日本、米国、英国、アジア、中国の BCP 動向調査報告
学校教育機関における BCP のあり方について	メンバーの教育機関の特徴、防災・BC 取組紹介と意見交換。
普及啓発セミナー	「熊本地震にける事業継続の状況とこれからの事業継続の取組み」
これからの BC	これからの BC（防災による安全の推進、早期に復元できる力の強化、成長を支える力の強化）の講演
「これからの BC」を踏まえて考える	これからの BC についてメンバーで意見交換
D-PAC プロジェクト	熊本地震対応シミュレーション
2015 年度 BCAA アワード受賞企業の事例紹介（予定）	「事業継続活動を通じた地域創生を目指す」について講演
WG 活動報告、建設業の BCP 取組（予定）	全国展開する建設業の BCP 取組事例紹介

* 詳細は、HP 登録の議事録参照下さい。

【終わりに】

今回、関西地域勉強会活動紹介の機会を頂き感謝します。また、これまで関西地域勉強会を

支援頂きました皆様に感謝します。今後も岡山地域勉強会、徳島地域勉強会等、地域連携も踏まえた魅力的な活動を実現できるよう運営計画を立案していきます。

関西地域勉強会メンバー全員、新規メンバーの参加をお待ちしています。

「地域勉強会活動」

徳島地域勉強会の活動 座長：湯浅恭史

この度、5 番目の BCAA 地域勉強会となる「BCAO 徳島地域勉強会」を立ち上げました。徳島県は BC に先進的に取り組んでいる地域と言われていますが、この地域勉強会の立ち上げの経緯や今後の計画についてお伝えします。

【立ち上げの経緯】

徳島地域勉強会が立ち上がったきっかけとして一番大きいのは、BCAO アワード 2015 において特別賞・優秀実践賞を受賞された株式会社井上組様（「BC 連携による災害対応力強化の取組み」）の存在です。同社はこのアワードを契機に BCAA の存在を知り、セミナー等のイベントや岡山地域勉強会の取組みに参加されるようになりました。また、連携先企業とともに BCAA 初級管理者資格を受験し、社内の人材育成にも活用しておられます。

このような取組みをする中で、より深く BC について学び、実践的な意見交換をする場が徳島にも欲しいとの要望が出てきました。これまで徳島県内では会員数が限られており、地域勉強会立ち上げ要件の 10 名の会員確保が難しかったのですが、株式会社井上組と BC 連携先企業により会員数が増加してきたことから、徳島地域勉強会の立ち上げをすることとなりました。

【徳島地域勉強会の立ち上げ】

2016 年 10 月 28 日に第 1 回の徳島地域勉強会を開催し、細坪事務局長をはじめ、関西地域

勉強会、岡山地域勉強会等からも多数ご参加頂きました。

まず、座長から地域勉強会立ち上げ経緯を説明した後、堀越理事長からのメッセージを細坪事務局長に代読頂きました。その後、出席者による自己紹介と徳島地域勉強会に期待することを発表して頂き、今後の予定について意見交換を行いました。勉強会の後は、懇親会を行い、参加者で更なる意見交換を実施しました。

今後の予定として、まずは 12 月に岡山地域勉強会と連携して D-PAC を実施することが決まりました。



写真-1 徳島地域勉強会立ち上げの様子



写真-2 懇親会での細坪事務局長のご挨拶

【今後の計画】

今後の計画としては、立上げ時に参加者から要望のあった、本来のビジネス継続や実効性のある BC などをテーマに 2~3 ヶ月に 1 回の頻度で勉強会を実施することとし、積極的に関西地域勉強会、岡山地域勉強会との連携を図っていくこととしています。徳島県では弊職が徳島大学で運営している徳島県 BCP 研究部会があ

りますが、地域勉強会をこの上位に位置づけ、会員間でより踏み込んだ意見交換を行っていきたくと考えており、災害時のBC連携だけでなく、平時からのビジネス連携がこの勉強会から育っていくことを目指しています。

会員の方はもちろん、会員以外の方でもお試して参加して頂けますので、事務局までお気軽にお問い合わせ下さい。

D-PAC プロジェクト in 徳島 想定外への挑戦 ～南海トラフ巨大地震お互い様連携～

【地震の想定と検討内容】

2016年12月16日(金)、徳島大学工業会館において「D-PACプロジェクト in 徳島 想定外への挑戦～南海トラフ巨大地震お互い様連携～」が開催されました。BCAO 徳島地域勉強会、岡山地域勉強会、徳島県BCP研究部会のメンバーが、今後30年で70%の確率で発生されると言われている南海トラフ巨大地震が発生したことを想定し、被災した徳島県内の企業が事業継続に必要な資源を考え、どのような情報発信ができるか？それに対し、岡山県の企業を中心に、全国からどのような支援が可能かを具体的に検討しました。

東海・東南海・南海でマグニチュード9.0の地震が発生し、全国の広い範囲で強い揺れが観測され、ライフラインが止まり、交通機関も麻痺している地震発生から3日後という被害想定ではじまりました。参加者は、「徳島県内企業」、「徳島県内の建設会社」、「岡山県を中心とした支援企業」に別れ、それぞれの「被害状況」、「災害対応」、「協力要請」、「応援」についての検討を行い、お互い様連携について、ウェブ上の掲示板を利用してやり取りを行いました。

【被災地企業の対応】

徳島県内の企業では、厳しい被害の状況から、はじめは自社の「被害状況」を付箋に書き出す

のが難しかったようですが、TVの被害情報などにより状況が付与されると、徐々に必要なものや足りないものが抽出されだしました。



写真-1 被災地企業によるニーズの検討



写真-2 徳島県内の建設会社による物資受け入れ拠点の検討

【支援企業の対応】

一方、岡山県を中心とした支援企業では、被害は軽微であり支援に意欲的であったものの、被災県でのニーズや輸送ルートがわからずにはいましたが、岡山県から香川県を経由して、津波被害を免れた徳島県西部への輸送ルートが確保できそうなこと、また、津波被害のあったエリアに直接支援することは土地勘もなく難しいことから、徳島県西部に物資の受け入れ拠点を確保するように掲示板を通じて徳島県内企業に指示を出しました。

この指示により、徳島県西部の建設会社が中心となって、受け入れ拠点を確保するとともに、岡山県の企業が岡山県内に物資配送の取りまとめ拠点を確保し、被災状況に応じた応援側と受援側の拠点と体制がそれぞれ明確となりました。そして、被災地のニーズと全国からの応援できることをマッチングしていく段階で時間となりました。

この D-PAC に参加してみて、想定外のことが起こっても、お互い様 BC 連携で普段からの関係性があり、情報のやり取りをすることができれば、足りない資源を確保し、より早期の復旧、事業継続への対応が可能であることが改めて認識できました。

参加者の感想にも、「連携の本当の意味を感じる

ことができた」「地元との連携、他地域との連携を考えるきっかけになった」との言葉がありました。より現実に近い形でやり取りができたことで、応援側も受援側も具体的な方策や課題も浮き彫りになり、とても有意義な時間になったと思います。

最後になりましたが、宮城県からウェブ掲示板にご参加頂いた方、岡山地域勉強会の皆様、ファシリテーターの細坪事務局長、平吾様、ありがとうございました。BCAO 徳島地域勉強会では、今後も他地域との BC 連携を考えるワークショップ等をしていきたいと考えています。ぜひ一緒に想定外への挑戦を考えていきましょう。

BCAO アワード 2016 募集のお知らせ

案内ページ <http://www.bcao.org/>

■趣旨：

BCAO は日本での事業継続（以下 BC）普及を目指し、各種活動を進めています。その一環として、BC の普及に貢献または実践された主体の表彰を行っており、2016 年度の募集を行います。標準化・公開、普及等の活動や、調査研究・手法提案、BCP の策定、BCM の実施、人材育成、訓練、点検・改善等の実践を表彰し、その成果を広く知らしめることを目的とします。また、昨年度に引き続き「BC 推進事例賞（または特別賞）」を設け、阪神・淡路大震災以降の事例で BC の推進に顕著に寄与した事例（または人物）、自薦・他薦を問わず募集いたします。

- 賞：・事業継続部門：大賞、特別賞、優秀実践賞、人づくり・訓練賞、奨励賞
- ・防災部門：企業防災賞
- ・BC 推進事例賞（または特別賞）

※大賞は原則 1 件とし、他は優れたものが多数あれば各賞の受賞者数を限定しません。

※以上の部門の区分を特定しないで応募することができます。

- 応募資格：特にありません。自らの取組みについて応募してください。個人、企業、団体や（企業等の中の）部門でも可。BCAO の会員である必要はありませんが、その場合会員の推薦が必要です。中小企業の方の応募も大いに歓迎いたします。なお、「BC 推進事例賞（または特別賞）」は他薦も可能です（表彰は当該主体が受諾いただいた場合に限ります）。

- 応募期間：2016 年 11 月 10 日～2017 年 1 月 31 日

- 応募様式：**BCAO アワード 2016 応募フォーマットをダウンロード**して頂き、必要事項をご記入の上ご応募ください。

- 提出先：BCAO 事務局 E-mail: bc@bcao.org (TEL: 03-5521-2235)

BCAO ニュースレター 第 24 号

発行日：2017 年 01 月 23 日

発行：特定非営利活動法人事業継続推進機構

<http://www.bcao.org/>